

# 新そばの味を堪能

古文原ふるさと委員会

古御堂・文珠嶺・古原地区（合計65世帯）でつくる古文原ふるさと委員会（会長 船越奉文さん）は12月16日、古文原ふるさと会館で、収穫したばかりのそば粉を使って「新そばを楽しむ会」を開きました。

この日は、地区住民が集まって、黒大豆の収穫作業と合わせて新そばを楽しむ会が開かれ、地元の新そば打ち名人が打ったそばを大きな釜で手際よくゆで、手作りのつゆと共にいただきました。そばを打っておられた、地域交流部会長の福田富夫さん（古御堂）は「そばづくりを研究しているうちに、そばにはまってしまいました」と、打ち方やつゆの魅力を語っておられました。また、収穫された黒大豆の一部は早速正月用にと、地区の全世帯に配られました。

古文原ふるさと委員会は、中間地域活性化交付金事業で3年前に古文原ふるさと会館や公園を建設し、地域おこしに力を入れていきます。そばや黒大豆を作り、近くの住雲寺（通称ふじ寺）の藤まつりの来場者に振る舞ったり、県内外に視察研修に行ったりと活発な活動を行っています。



「うまいな～」おいしく出来上がったそばに舌鼓を打つ皆さん

## 安全と積雪を祈って 大山スキー場開き祭



リフトからの祝いもちまき。（もち米は大山小学校の5年生が地域の方々と育てたものです）

大山スキー場開き祭が12月23日、大山中の原スキー場で行われました。ゲレンデに積雪はないものの、雪を待ちわびるスキーヤーなど約700人が参加し、1日も早い積雪とシーズン中の安全を祈りました。神事の後、僧兵にふんした大山小学校5・6年生による祝いもちつきや大山僧兵太鼓保存会による降雪祈願太鼓も披露されました。

そのかいあってスキー場は、年末の寒波で大晦日にオープン。以来積雪に恵まれ、ウインタースポーツを楽しむ多くのスキーヤーなどで賑わっています。今シーズンから、豪円山スキー場入り口の旧グリーンロッジを改装し、パトロール本部、大山寺診療所などを備えた総合案内所、「大山スキー場総合サービスセンター」を開設しています。

## 手打ちそばを振る舞う



名和グリーンカルチャーグループホーム陽だまりの家 なかやまを訪問

◀目の前でそば打ちを披露。米沢さん（左）のトークが光り、山上さん（中）の汗が流れ、平田さん（右）の指導がさえ渡りました。

農業後継者の会の、名和グリーンカルチャー（会長 山上泰典さん、会員15人）が、12月19日、塩津のグループホーム「陽だまりの家」なかやまを訪問し、自分たちで育てたそば粉を使った手打ちそばを実演。入所している皆さんにかけそばにして振る舞いました。石橋多美子さん（84歳）は、「そばは好物です。とてもおいしいです。小さいころ家中がそば好きで、母親がよく打って食べさせてくれました。そばを切る音が好きです」と懐かしんでおられました。会長の山上さんは、「自分たちが楽しんで、それで人も喜んでもらえたらと活動しています。そばは奥深いです」と話しておられます。

## 監査事務に貢献

監査委員として全国表彰



表彰状を手にする椎木喜久男さん

10月16日、東京国際フォーラムホールで地方自治法施行60周年記念監査事務功労者表彰式が開かれ、椎木喜久男さん（種原）が全国町村監査委員協議会長から表彰されました。これは椎木さんが、旧大山町時代から長年監査委員を続けられ、その功績が認められたもので、12月26日には、山口町長から、表彰状の伝達が行われました。